



**戦争をさせない**  
Anti-War Committee of 1000  
**1000人委員会**

1000人委員会ニュースNo.4  
(2014年7月11日号)  
〒101-0063東京都千代田区  
神田淡路町1-15 塚崎ビル3階  
TEL: 03-3526-2920  
FAX: 03-3526-2921

## 【声明】 戦争をさせない1000人委員会は 「集団的自衛権」 行使容認の閣議決定に反対します！

2014年7月1日  
戦争をさせない1000人委員会

日本国憲法は、前文に「政府の行為によつて再び戦争の惨禍が起ることのないやうにすることを決意し」と謳い、第9条には「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」と定めました。

この条文は、アジア・太平洋戦争における、アジア諸国民200万人、日本国内で310万人ともいわれる多数の犠牲の上にたつたものです。また、900万人以上の戦死者を出した第一次世界大戦の反省から63か国間で締結されたパリ不戦条約第1条の「締約国は、国際紛争解決のため、戦争に訴えないこととし、かつ、その相互関係において、国家の政策の手段としての戦争を放棄することを、その各自の人民の名において厳粛に宣言する」と通底するものです。その意味で、日本国憲法の平和主義は、全世界が求める理想に立脚するものと言えます。この憲法のもと、私たちは、他国に直接に銃を向け、傷つけ合う不幸だけは味わうことなく、戦後69年を過ごしてきました。

しかし、今日、安倍政権は、「集団的自衛権」の行使は憲法上許容されていないとする、これまでの憲法解釈を逸脱する閣議決定を行いました。「集団的自衛権」行使は限定的であるなどと言っていますが、政府の用意した想定問答集には今回盛り込まれなかったはずの「集団安全保障」も憲法上許容され得るようになっているように、その狙いは明らかです。「集団的自衛権」を行使するということは、中立の立場を捨て敵対国になることであり、戦争に参加すること以外のなにものでもありません。そして、これまで行われてきた多くの戦争が、「集団的自衛権」の行使として正当化されてきたことを、見逃すことはできません。

この間、安倍政権は、単に憲法の破壊だけではなく、人権の破壊、生活の破壊を行ってきました。その安倍首相の言う、「国民の生命と財産を守る」ために、これからどれだけの人々が傷つき、犠牲となることを強制されるのでしょうか。誰かに犠牲を押しつける社会を、もう私たちは許してはなりません。いまこそ憲法の理念を、それを弄ぶ権力者から、私たち自身の手に取り戻さなくてはならないのです。



首相官邸前で閣議決定反対のシュプレヒコール

私たち「戦争をさせない1000人委員会」は今回の「集団的自衛権」行使容認の閣議決定に対し、怒りを込めて抗議するとともに、憲法破壊・人権破壊・生活破壊の安倍政権と真っ向から対決し、全力で闘っていく決意をあらためて表明します。ひとりひとりの命を大切にする社会の実現のために、すべてのみなさんに、私たちとともに、立ち上がることを呼びかけます。

## ■6. 26 院内集会・官邸前抗議行動

「憲法破壊の『集団的自衛権』行使容認反対！みんなの力で閣議決定を阻止しよう！6.26 院内集会」が6月26日、衆議院第一議員会館多目的ホールで開催され、会場満員の280人が参加し、同時に衆院第二会館前でシュプレヒコールとリレートークが行われました。

集会には、吉田忠智参院議員（社民党党首・立憲フォーラム）ら5人の国会議員が参加し、安倍首相の「集団的自衛権」の行使容認に向けた憲法解釈変更と闘う決意を表明しました。続いて、東京新聞論説委員の半田滋さんが講演。

集会後は、集会後は官邸前で900人を超える参加者が「閣議決定をするな！」「集団的自衛権反対」などとシュプレヒコールを行いました。



事務局長の内田雅敏さんが開会あいさつ



**半田滋さん（東京新聞論説委員）** 私は防衛庁・自衛隊を23年間見続けてきたが、自衛隊は自らが最初に犠牲になるような集団的自衛権の行使を望んでいない。霞ヶ関の役所の中で唯一、集団的自衛権の行使が必要だと言っているのは外務省だけだ。安保法制懇は何の権威もなく、法的根拠もない。「法的基盤の再構築」という看板とは裏腹に、中身を見ると憲法学者は1人だけしか入っていない。2007年に第一次安倍政権から2013年の第二次安倍政権が発足するまで、この間に首相になった人は、集団的自衛権について何も言っていない。安倍さんが首相になった時だけ“安全保障環境が悪化”している。尖閣諸島は日本の領土だから、わざわざ集団的自衛権を行使して守りに行く必要はない。集団的自衛権の行使によってアメリカの若者が1000人死ぬところ、他国の若者が300人でも死んでくれば自国の若者が助かる。そもそもアメリカが攻撃されるような事態があるのか。普通のご感覚の政府ならアメリカと戦争はやらない。

閣議決定案の文面を見る限り個別的自衛権であり、何のための閣議決定かわからない。むしろ日米ガイドラインによって自衛隊がアメリカ軍と共に戦うことになるのではないかと。今後の国会で自衛隊法を改正して、アメリカの防衛や外国での武力行使もできる内容に変えるための法案が10以上出てくるだろう。ドイツのワイマール憲法は、ヒトラー内閣の全権委任法によって骨抜きにされ、1条、2条で「ヒトラー内閣はワイマール憲法に違反する法律を制定することができる」と書いてある。安倍さんが「最高責任者は私だ」と言ったが、これとよく似ている。ヒトラー内閣の側近でヒトラーの後継者と言われたヘルマン・ゲーリングが書いた本「戦争の始め方」には次のように書いてある。「政策を決めるのはその国の指導者です。…そして国民はつねにその指導者のいいなりになるように仕向けられます。国民に向かって、われわれは攻撃されかかっているのだと煽り、平和主義者に対しては、愛国心が欠けていると非難すればよいのです。このやり方はどんな国でも有効ですよ」。残念ながら、70年たった今でも有効だと実感している。



官邸前での抗議行動

## ■6. 30抗議行動に1万人以上が結集

安倍内閣が7月1日に「集団的自衛権」行使容認の閣議決定を行うことに反対し、6月27日(金)、6月30日(月)に首相官邸前で連続して抗議行動を行いました。

6月27日は約600人以上の市民が参加。6月30日の夜は最大1万人以上が詰めかけ、色とりどりの様々なのぼりやプラカードを掲げて「解釈改憲絶対反対!」「閣議決定やめろ!」「安倍はやめろ!」などと、シュプレヒコールを繰り返しました。



1万人以上が抗議に詰めかけた(6月30日、首相官邸前)



デモは決壊して車道にあふれ、市民の怒りは頂点に達した(6月30日、首相官邸前)

## ■7. 1閣議決定の抗議に1万人が反対の声

閣議決定当日の7月1日(火)は、首相官邸前で朝から夜まで抗議行動が行われ、1万人以上が詰めかけました。朝の行動では厳しい規制が敷かれ、抗議デモを鉄柵で囲う警察官と、押し戻す参加者で揉み合いになりましたが、1000人委員会事務局長の内田雅俊弁護士が、「鉄柵設置は不当だ!」として警官らに抗議し、鉄柵を撤去させました。



抗議デモを鉄柵で囲う警察官と押し戻す集会参加者ら(7月1日、毎日新聞より)



臨時閣議に出席する大臣の車両が到着すると、ひときわ大きな抗議の声が浴びせられた(7月1日、首相官邸前)

その後、17時30分前後に集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈変更の閣議決定が行われました。官邸前では、「閣議決定撤回!」「勝手に決めるな!」「集団的自衛権反対!」など閣議決定を弾劾するシュプレヒコールが夜まで続けられました。

首相官邸では午後16時過ぎに行われた与党協議に続き、17時には臨時閣議が開かれました。閣議に臨む大臣の車列が到着すると、デモの参加者から一段と大きな抗議の声が上がりました。



閣議決定が行われたとの一報が入り、徹底弾劾のコール(7月1日、首相官邸前)

## ■7.1閣議決定に抗議する記者会見

1日の19時から国会近くの星陵会館で「戦争をさせない1000人委員会」は記者会見を行い、閣議決定を受けて抗議声明を発表しました。記者会見には1000人委員会の呼びかけ人から、大江健三郎さん（作家）、鎌田慧さん（ルポライター）、小山内美江子さん（作家）、落合恵子さん（作家）、山口二郎さん（法政大教授）、清水雅彦さん（日体大教授）が出席し、閣議決定への抗議と見解を述べました。



記者会見で抗議声明を述べる呼びかけ人ら（星陵会館）



**清水雅彦さん（日体大教授）** 憲法9条のどこをどう解釈しても、集団的自衛権の行使容認が出てくるわけがない。もし認めてしまったら、9条2項の存在価値がなくなってしまう。自民党も当初は憲法を改正しないと集団的自衛権行使ができないと考えていたが、96条改正論を断念してもっとも簡単な解釈改憲という形をとった。国会と国民の意思を問うていないことは立憲主義に反する。憲法というルールを無視した「レッドカード」で退陣しなければならない。私たちが十分運動を構築できなかったことを反省し、90年代のPKO法案の際には、社会党が牛歩戦術を使って抵抗したように、関連法案を阻止する闘いを行う必要がある。閣議決定は到底許されず、今後も異議を唱え続けたい。

**山口二郎さん（法政大教授）** 議論のプロセスが極めて不誠実だ。国民の生命、国の存在を守るのではなく、集団的自衛権の行使をできるようにすることが目的ではないか。目的と手段が転倒している。閣議決定は安倍政権によるクーデターだ。憲法第65条の「行政権は内閣に属す」という条文をもとに憲法解釈を変更すると言っているが、内閣に重要な憲法上の原則に関する解釈を変更する権限は与えられていない。行政権の範囲を逸脱している。安倍首相は「私が憲法解釈の最高責任者である」と言い張っていたが、これは正に専制だ。民主主義から逸脱した行為だ。「積極的平和主義」「限定的行使」は語義矛盾であり、本来そういうことはあり得ない。他国と共同して軍事行動を行う場合、自衛隊だけ帰りますというわけにはいかない。世界中どこの国でテロが起きて、我が国の存立を脅かすことになる。「泣く子と地頭には勝てぬ」というが、安倍首相は泣く子が地頭になったようなもの。最高権力者が泣く子だが、これをしかりつける手だてがない。しかし、我々はこのような消極的政治文化を打破して、今後の関連法案の審議等の中で、安倍政権の欺瞞、詭弁を徹底的に追及していきたい。



**小山内美江子さん（作家）** 松の廊下で後ろから安倍を羽交い絞めにしたいような心境だ。あの国は戦争をしない、そういう国が世界に一つだけでもあれば希望が持てる。今年84歳ですが、15歳で終戦を迎えた時、真っ先に母が電灯の黒い覆いはずした。外に出ると焼け跡の中で、家々の電灯の輝きを見て「もう二度と戦争をしなくていいんだ」と思ったことが印象的だった。教科書にも出ているように、昭和16年に東條内閣が戦争を行う閣議決定をしたが、その中には岸信介の名前もある。今日の閣議決定も、次の戦争ができるようになったのは安倍内閣の顔触れだと、教科書に載せてほしい。

**落合恵子さん（作家）** 2014年7月1日は、立憲主義の息の根が止められ、民主主義が殺されようとした日だと記憶されるでしょう。60年前の今日は、自衛隊が発足した日だ。あの時「自衛隊は軍隊ではない」と言ったことは、今にして思えば解釈改憲ではなかっただろうか。若者やこれから生まれてくる子どもの未来を危機に陥れることは、集団的自衛権行使容認も原発の構造も全く同じである。貧困に苦しむ若者が軍隊に入るしかないという体制を作ろうとしている。国民の命を守ると言っている人が、国民の命を危機にさらしている現実気づくべきだ。もう一度、憲法9条を見つめ直す必要がある。読者からのメールや電話で次のような意見をもらった。「夫は自衛隊員だが、軍隊に入ったわけではない。夫は自分が殺さないと言われているような戦争をするために自衛隊に入ったわけではない。私たち家族はどうしたらいいのでしょうか（30代女性）」、「生まれて初めて僕は、これが権力なんだと実感させられた（20代男性）」、「生活に困窮するとき、軍隊に入りなさいというビラが撒かれるのではないかと（28歳男性）」。まだ閣議決定でしかない。これからも反対の声を上げ続けていきましょう。



**大江健三郎さん（作家）** 言葉というものを不正確に使い、違った意味で引用するということが、これほど大手を振ってまかり通ったことはない。憲法前文の平和思想を引用して「これを生かすために集団的自衛権を行使する」というのは、言葉に対する裏切りであり侮蔑だ。私が10歳の時に戦争が終わった。その後、大学に入ったばかりの19歳の時に自衛隊という新しい軍隊が日本に現れた。これまで自分が一番大切にしてきた文章が「新憲法」で、学校で始めてもらった教科書が「新しい憲法の話」という本だった。民主主義と平和主義を大切に考えてきた。一番大切なものは憲法で、人間らしく生きていくモラル、全ての法律の根本が憲法だが、それを大切だと思わない典型的な人物が安倍だ。戦後日本を「悪いレジーム」、それ以前が「良いレジーム」と言っている。ヒトラーがいい例だが、あの人物がいたから歴史が変わってしまった、この人がいなければこんな悲惨なことは起こらなかった、という過去と同じように、安倍がいなければこんなことにならなかった、という歴史を見抜けないのか。閣議決定は大臣一人でも反対すれば決定できない。公明党の大臣が賛成しなければ成立しなかった。今まで戦後60年間積み重ねたものを無意味にするようなことはやめよう。安倍は批判を真に受けたことがなく、決して反省したことはない。集団的自衛権を使うことは、世界中の人々を敵に回し、敵国にするということだ。いまや世界中でテロの危険があり、日本が戦争をする相手国の人間が、日本国内でテロという名の戦争を仕掛けるかもしれない。原発は核兵器のようなもので、テロリストが原発を爆発させれば大きな核兵器になる。日本人に対して恐怖心を煽ることだ。ここに来る間デモの中を歩いてきたが、民衆が反対の声を上げていることに対して希望を持っている。この声を聞いてなぜ安倍は反省しないのか。次の世代の子どもたちのために、安倍に反対する人々が過半数を取って、安倍政権を倒すためにやれるだけのことをやろうじゃないか。

**鎌田慧さん（ルポライター）** 54年前の6月下旬、安保反対闘争があった。国会前で今日と同じような行動が起こった。このような形でこの日を迎えることは残念だ。第2次世界大戦の深い反省の上に平和憲法が制定された。天皇も憲法を守らなければいけないのに、たかだか一内閣だけで解釈改憲を決めたことは正に憲法違反だ。閣議決定は、集団的自衛権の行使を容認しただけだが、実際の行使は絶対に阻止しなければいけない。ここから逆転させないために、「戦争をさせない1000人委員会」は、運動を繰り広げていきたい。



## ■憲法破壊を許すな！ 7.3集会

「安倍政権の憲法破壊を許すな！7.3集会」が7月3日、国会近くの「星陵会館」ホールで行われ、会場一杯の500人以上が参加しました。

集会では、1000人委員会事務局長代理の清水雅彦さん（日本体育大教授）が開会あいさつを行い、7月1日に安倍首相が憲法解釈を変更する閣議決定を強行したことに強く抗議し、安倍政権と真っ向から対決する事を確認しました。集会には、立憲フォーラム代表の近藤昭一衆院議員、社民党の吉田忠智党首ら国会議員も参加し、国会内で闘う決意を述べました。続いて、東京大学教授の高橋哲哉さんが講演を行いました。

集会後は官邸前へ移動して、「解釈で9条壊すな！実行委員会」や市民と共に閣議決定反対の抗議行動を行いました。雨にも関わらず1200人に達した参加者は、「閣議決定を撤回しろ！」「安倍首相はやめろ！」などと、官邸に向かってシュプレヒコールを繰り返しました。1000人委員会の内田雅俊事務局長が、「閣議決定は違憲で無効だ。関連法案を作らせない闘いが重要だ。臨時国会が始まる頃に国会包囲行動など、様々な闘いを全国で起こそう」と今後の運動を提起しました。



参加者で満席となった星陵会館ホール



**高橋哲哉さん（東京大学教授）** 福島で生まれ育った、原発政策は許せない。安倍首相が世界に嘘をついてオリンピックを誘致したことに強い怒りを感じる。沖縄の基地問題も同じように、沖縄の民意を完全に無視して7月1日の閣議決定と同じ日に辺野古の工事に着工した。安倍内閣はこれまでにない最低・最悪の政権であり、底なしのモラルハザードで道義的退廃そのものだ。安倍政権は支配層のために政治をやっており、福島の犠牲も、沖縄の犠牲も、戦争の犠牲も無視している。あらゆる詭弁を弄した卑怯なやり方で無理やり押し通すことは筋が通らない。

集団的自衛権は民意に反している。集団的自衛権は歴代政権が憲法尊重・擁護義務により、憲法9条の下では行使できないとしてきた。この解釈を安倍内閣が一首相の恣意で変えてしまうことはまさにクーデターだ。これが許されるのであれば、9条だけでなく、基本的人権の尊重や主権在民など憲法のあらゆる解釈変更が可能になってしまう。この閣議決定を許すのであれば、憲法全体が無効化されることを認めることになるだろう。安倍首相は法学部出身なのに憲法のことを知らない。これこそまさに“学力低下”だろう。

閣議決定後の記者会見でもパネルを出して国民の感情に訴えようとしていたが、前提がおかしい。アメリカでは有事の際に民間人の救出順序が決まっていて、①アメリカ国民、②永住権取得者、③イギリス人、④その他の順番で、日本人はその他に該当する。機雷は敷設も排除も戦争行為であり、日本から戦争を仕掛けることと同じだ。中東に戦争を仕掛けると第3次世界大戦になりかねない。

アメリカ同時多発テロ後のイラク戦争では、イギリス、ドイツ、イタリア、カナダ、オーストラリアが集団的自衛権を発動した。日本はアメリカの人道復興支援活動に参加したが、武力行使ができるようになれば日本は侵略国だと見なされる。相手国からすれば、



雨の中1200人がシュプレヒコールを上げた

自衛権を行使して日本に攻撃してくることになるだろう。

戦後日本は、「非戦の誓い」で二度と戦争や武力行使をしないことを憲法で誓った。これに対して自民党は、憲法を変えて戦争ができる国を実現するために憲法改正草案を出してくるだろう。靖国思想、徴兵制が復活し、「日本固有の伝統と歴史を持つ天皇を中心とする国家」という大義名分で戦争を正当化してゆくだらう。それを許さないために、蟻の一穴からつぶしていかなければならない。閣議決定の撤回を求めて、市民が大きな声をあげ、政治勢力を結集して安倍政権を倒そう。力を合わせてこの国が戦争をする国にならないように阻止していきましょう。

## ■集会・活動スケジュール

7月11日時点での予定です。日程変更や緊急の行動呼びかけをさせていただきます。詳細はホームページをご覧ください。

**7月13日（日）12時00分～ 「閣議決定」撤回！閉会中審査でごまかすな！7.13国会包囲大行動**  
場 所：国会議事堂正門前（地下鉄国会議事堂前駅2番出口）  
※呼びかけ団体：解釈で憲法9条を壊すな！実行委員会

**7月14日（月）9時00分～17時00分 憲法破壊を許すな！7.14国会前行動**  
内 容：座り込みと傍聴行動  
場 所：衆議院第2議員会館前  
※12時から、解釈で9条壊すな！実行委員会との集会を予定

**7月15日（火）9時00分～17時00分 憲法破壊を許すな！7.15国会前行動**  
内 容：座り込みと傍聴行動  
場 所：参議院議員会館前  
※12時から、解釈で9条壊すな！実行委員会との集会を予定

**7月31日（木）18時30分～ 「戦争をさせない1000人委員会」7.31集会**  
場 所：全電通ホール（御茶ノ水、地下鉄新御茶ノ水・淡路町・小川町下車）  
講 師：浦田一郎さん（明治大学法学部教授）ほか  
※秋の臨時国会に向けての取り組み提起を行います

## ■全国のみなさんからのメッセージ

- 「私の父はパプアニューギニアの激戦地から九死に一生を得て帰りました。10年前に亡くなりましたが、その父が、『お前、何とかこの動きを止めてくれよ。戦地で戦い亡くなった戦友たちに申し訳が立たない。憲法を守ってくれよ』と泣き叫んでいる気がします。長いこと私たちは口をつぐみすぎてきたような気がします。この試練を皆様と共に闘って、次の世代に『私たちはこうして守ってきたよ』と伝えたいです」
- 「仕方ないや、と諦める訳にはいかないし、黙ってはいけません。安倍さんに『決めてしまえばこっちのもの』と思わせるのは我慢なりません。反対の意思を持つ人たちが大勢集まり、目に見える形で抗議し続けることは意味があり、大切だと思います。今回は若い人たちが抗議行動に参加されていて頼もしさを感じます。若い人たちに『言うてはみたけれどだめだった』という思いを味わってほしくないと考えています。」

＜事務局からのお知らせ＞

各地域の取り組み、1000人委員会の立ち上げ、賛同者の皆様のメッセージなどを掲載していきたいと考えています。事務局へ手紙、FAX、メールでお寄せください。紙面の都合上、掲載しきれない場合はご了承ください。